

## 校外教育 研究紀要

<研究主題>

学校・家庭・地域と連携した持続可能な学習及び活動の実践



### 朝霞市立朝霞第三小学校

〒351-0003

埼玉県朝霞市浜崎230番地

TEL : 048-471-1630

FAX : 048-476-1325

Email : 3shou@asaka-s.ed.jp

H P : <http://www.asakadai3shou.city-asaka.ed.jp>

## 1 学校概要

本校は、明治10年、上内間木阿弥陀堂に開設された内間木小学校と、明治11年浜崎三光院に開設された新盛小学校の2校を前身とする。明治41年7月7日に東・西中川尋常小学校が併合し、内間木尋常小学校となる。開校148年を迎え、令和9年度には開校150周年となり、周年行事に向けてPTAや学校運絵協議会と連携して着実に準備を進めている。児童数817名、通常学級24、特別支援学級2の計26学級であり、児童は微増傾向にある。

近くを黒目川・新河岸川が流れ、畑に囲まれ自然に恵まれた環境にある。また、給食センター、児童館、公民館、福祉センターなどの公共施設も近くにあり、地域と連携した「ふれあいと豊かな体験活動」を重視した特色ある教育活動を推進している。

## 2 研究概要

### (1) 研究

学校・家庭・地域と連携した持続可能な学習及び活動の実践

### (2) 設定理由

本校は周辺を河川や水田、田畑など多様な自然に囲まれている。これまでも立地を生かした自然体験を核とした学習や地域の方と連携した学習などを行ってきた。一方で学校を取り巻く環境の変化により、従前通りに活動を行うことについて課題も出てきている。児童がこれからも豊かな学習を享受できるよう、学校・家庭・地域と連携して取り組んでいくことを目指して本テーマを設定した。

### (3) 研究のねらい

地域の方の協力を仰ぐことの多い環境に係る学習活動を中心に協力体制等の再確認・再整備を行うことで学習効果の向上を図っていく。また、地域の様々な人材との活動を通して、児童が将来に渡って地域に積極的に関わっていく意欲や能力の育成を図る。

### (4) 研究計画

- 4月 ・学校ファーム等の活用計画・学習計画の作成
  - ・環境整備活動（教職員と地域による学習事前準備）
- 5月 ・田植え（5年生）
- 春～秋 ・野菜づくり体験（学校ファーム、2年生、特別支援学級）
- 9月 ・稲刈り体験（5年生）
  - ・環境整備活動（地域やPTAとともに除草作業等）
- 11月 ・ふれあいまつり  
（学校・家庭・地域等が連携した中学校区単位での自主イベント事業）
- 1月 ・環境整備活動（地域やPTAとともに環境整備等）
- 2月 ・米作り成果発表会（5年生）
- 3月 ・環境整備（地域やPTAとともに除草作業等）
- 通年 ・児童の委員会活動による花植・栽培活動

### 3 研究の取組

#### (1) 稲づくり体験

本校敷地内には約70㎡の「田んぼ」が設置されている。豊かな自然体験を身近にという趣旨のもとで約20年前に設置され、以後適宜補修を行いながら5年生の総合的な学習の時間と関連付けて稲づくりが行われている。

本校学校運営協議会委員も務めていただいている地元農家の方とJAあさか野の方の協力をいただき、毎年5月の代掻きと田植え、9月の刈り取りまでを児童が体験する。米作りの過程の一部を手作業で体験することで、米作りの大変さを実感するとともに、農家やJAの方たちなどの米作りに携わっている方への感謝の気持ちをもつ貴重な機会となっている。

収穫した米は精米後、家庭科の調理実習で炊飯し、自分たちで味わうことができた。どの児童も自分たちが育てた米であることも相まって、おいしく食べている様子が印象的であった。

また、今年度は朝霞市と連携し、市内で農業用ドローンを製造しているNTT e-Drone Technologyの方を招いて、農業用ドローンの実演飛行を見学した。農業に係る社会問題を解決するための今日的な取組の一端を見ることで、児童は学習を深めることができた。



#### (2) 学校ファームでの野菜作り体験

本校に隣接して約230㎡の学校ファームがある。そこでは主に2年生と特別支援学級が生活科と関連付けて野菜作り体験を行っている。現在は学校応援団の方の協力を得ながら活動を行っている。今年度は大根、サツマイモ、枝豆を栽培した。

児童は生育状況を逐一記録に残しながら、学校応援団の専門的な



話も聞きながら、作物栽培の大変さを実感すると同時に収穫の喜びを感じていた。限られた広さの中で作物を毎年作ることによる連作障害の気配もあったため、今年度は土壌改良を行った。

### (3) ふれあいまつり

朝霞市では中学校区ごとに、地域における奉仕活動・体験活動・防犯活動等の取組を推進することにより、心豊かな青少年の育成・地域で子どもを育てる意識醸成・地域の教育力の活性化の3点を目的としてふれあい推進事業を行っている。本校は朝霞第五中学校との2校で事業を実施している。

本校PTAが実行委員会を組織し、11月に「FUN!FUN!FUN!20 楽しいことい〜っばい!!」と銘を打って自治会、NPO団体、地域スポーツ団体、近隣商店、近隣企業が出店した。また、朝霞第五中学校生徒もボランティアとして運営に参加したり、吹奏楽部が発表を行ったりした。さらに小中の特別支援学級が合同で出店するなど、普段の教育活動の枠を超えた児童のふれあいが生まれている。

また、自治会の方が用意した物品が好評であり、児童とのふれあいを通して「元気もらった。」「来年はもっとこうしたい。」などと言ってもらえるなど、地域の方にとっても有意義な活動になっている様子が伺えた。



### (4) 児童による活動

#### ① 児童環境委員会による活動

児童環境委員会では、学校を自然豊かな環境にしようと、限られた活動時間を使って、ヒマワリなどの栽培を行っている。何を育てるのか、どのように行うのかなどは児童同士が話し合い、合意形成を図ったうえで実行に移している。

#### ② 生活科と関連付けた活動

例年、本校では1年生が朝顔を栽培し、種を次年度の1年生への贈り物として作成をしているが、「新1年生が花道を歩いて入学できるようにしたい。」という児童の願いを踏まえて、ビオラやチューリップなどの球根を栽培し、児童一人一人が丁寧に世話をしている。

## 4 成果と課題 (○成果 ●課題)

- 米作りや野菜栽培などの体験活動は地元農家や学校応援団の力添えにより、児童が実感を伴う活動となった。
- 自治会や各種団体・企業等との交流は、自分が地域の中で生活しているという事を改めて自覚させ、今後につながる活動になった。
- 持続可能という視点で研究を進めたが、教育課程への位置づけ、属人的な活動・取組にならないような仕組み作りに困難さがあった。
- 活動内容によっては予算措置が必要なものもあるため、数年先を見越した施設や備品の修繕計画が必要となってくる。